



大阪大学の研究方針

Ground Plan

大阪大学の新世紀 2008年11月

基本

地域に生き 世界に伸びる

ときめき





大阪大学の産学連携

産学連携·社会貢献「共同研究講座」

Industry on Campus構想を実現する新しい産学連携方式

大阪大学

産業界等

研究者・設備・施設等を提供

資金・研究者・研究資料等を提供

共同研究講座·共同研究部門

- ◆2年から10年の設置
- ◆共同研究に専念
- ◆知的財産の活用を重視した取り決め
- ◆出資企業と大学が協議して運営

教授又は准教授 1名 (准教授~助教) 1名

企業研究者 ポスドク、大学院生 兼任教授、准教授 等 事務員 大阪大学 出資企業(出向) その他の機関

選考

大阪大学テクノアライアンス棟 (平成23年4月予定)



産学連携環境での人材育成への挑戦

- ●実践的な人材育成の場をキャンパスに
- ●社会とのミスマッチを解消
- ●学生・若手研究者の積極的な交流を

多様な人材育成手法

平成22年4月現在、25講座・部門を設置、 総額33.2億円の研究費を獲得。

共同研究講座

協働研究所

協働ユニット





大阪大学の取り組み

大型教育研究プロジェクト支援室の設置

研究者が研究に集中するため、大型プロジェクト研究の運営を支援

チャレンジ支援プログラム

大型研究費に挑戦し、不採択の場合、つなぎの研究費を支弁

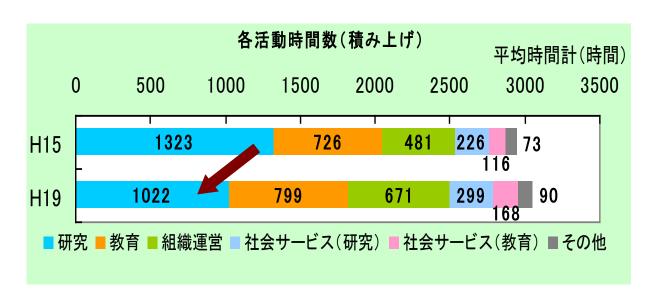
最先端ときめき研究推進事業

ときめきをもって最先端の研究を行う若手研究者に研究費を支援



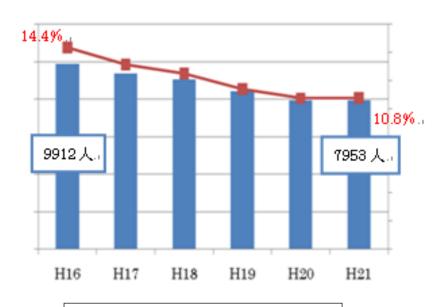
研究者は忙しく、博士学生の進学数減

教員の研究活動の時間数は、 大幅に減少



「科学技術政策研究所 NISTEP REPORT No.122 日本の大学に関するシステム分析により作成]

博士(後期)課程への 進学者の推移



[学校基本調査(文部科学省)により作成]

- ●研究者が「ときめき」をもって研究に専念できる環境づくりが必要
- ●大学院学生に対する経済的支援が必要